

News Release

報道関係 各位

2025年11月20日

【イベント開催報告】 青年技術士支援委員会 「行動経済学で切り拓く、技術者の新しい価値創出」 対面開催にて大盛況で終了！

公益社団法人日本技術士会 青年技術士支援委員会（委員長：森 祐真）は、11月15日（土）に機械振興会館（東京都港区芝公園3丁目5-8）にて、**技術士のコンピテンシー（問題解決・コミュニケーション）の向上**を目的としたイベントを開催しました。本イベントでは、経済学に心理学的な知見を取り入れ、人間の意思決定や行動のパターンを解明しようとする「行動経済学」に焦点を当てました。講義やグループワークを通じて、参加者は「行動経済学の基礎知識や活用方法」を学びました。当日は、45歳以下の技術士・技術士補・修習技術者21名が集まり、大盛況のうちに終了しました。

イベント詳細

本イベントでは、「人を動かす力や共感を生む提案力」を強化し、技術士として「価値を創出して社会に貢献する」ための土台作りを目標としました。その手段として、行動経済学における「人の非合理的な意思決定・行動」に着目し、講義と個人ワーク・グループワークを通じて、①気づき、②理解し、③活用する、というステップで学びました。

講義では、「行動経済学の変遷」や「認知のバイアス、判断のクセ、感情や状況による歪みから生じる非合理的な行動と理論」についての解説が行われました。特に、**本イベント独自の切り口として、技術士の実務に即した「行動経済学の適用事例」**が具体的に紹介され、参加者はその活用法について理解を深めました。

さらに理解を深め、活用していくために2つのグループワークを行いました。

グループワーク1として、最初に「非合理的な行動」と行動経済学の「理論」を結びつけました。体系的に整理された「行動経済学の理論マップ」に「非合理的な行動の例」を当てはめる作業を通じて、各理論への理解を深めました。次に日常生活や業務に潜む行動経済学の事例を各自で記述し、その時の心理やメカニズムについて考察を行い、グループ内で共有しました。

グループワーク2では、社会課題の例として「放置自転車の問題」を挙げ、行動経済学の理論を活用して放置を防止する演習を行いました。自転車を放置する行動プロセスとその行動の要因を整理し、そこからターゲット行動を定め、強制することなく自発的に行動を促す「ナッジ理論」を活用し、解決するプロセスを学びました。

参加者からは、「行動経済学を体系的に学ぶことができた。」「業務にどう活かすか参考になった!」といった声が寄せられました。



講義の様子



グループワークの様子



集合写真

【本イベントに関するお問い合わせ】

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会 委員長 森 祐真

委員会内広報グループ：山本直樹 E-mail: pr@peyec.jp ※取材の際は左記までお問い合わせください。

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会とは？

公益社団法人 日本技術士会は技術士制度の普及・啓発に取り組んでいる唯一の全国組織です。当会は、日本技術士会内に設けられた委員会組織で、45歳以下の技術士、技術士補、修習技術者から構成され、若手技術士に向けた研鑽事業の企画・実施・支援をしています。

技術士
仲間を
作ろう!